

第 27 回クラシックを楽しむ会

2015 年 11 月 15 日 (日) 18:00~22:00

歌劇「リゴレット」(ヴェルディ)

映像等 : 1982 年 4, 5 月イタリア北部ルネッサンス歴史都市
パルマのファルネーゼ劇場、
クレモナのドゥオモ広場、
マントヴァのドゥカーレ宮殿サン・ジョルジョ城、テ宮殿、
オリンピコ劇場、インフェリオレ湖他のミンチョ河畔

音声 : 1981 年 12 月ウィーン

楽団等 : ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、
ウィーン国立歌劇場合唱団

指揮 : リッカルド・シャイー

監督 : ジャン=ピエール・ポネル

出演 : イングヴァル・ヴィクセル (道化師リゴレット/
モンテローネ伯爵)

エディタ・グルベローヴァ (ジルダ)

ルチアーノ・パヴァロッティ (領主マントヴァ公爵)

フェルッチョ・フルラネット (殺し屋スパラフチーレ)

ヴィクトリア・ヴェルガーラ (マッドレーナ)

フェドーラ・バルビエーリ (ジルダの乳母)

その他



パヴァロッティ



ヴィクセル



グルベローヴァ(右)

ものがたり

好色領主マントヴァ公爵に仕える道化師リゴレットは家臣を笑いの種にして憎まれている。モンテローネ伯爵を笑いものに、「呪われる」と言われて恐れおののく。

リゴレットの唯一の生き甲斐、ひとり娘のジルダは公爵に口説かれて恋に落ちる。そしてリゴレットを恨む家臣たちに誘拐され、公爵の館に連れていかれる。

リゴレットは悲しむ娘ジルダと再会、公爵との一件を明かされ復讐を誓う。

リゴレットは、公爵が殺し屋スパラフチーレの妹マッドレーナを口説いているところを、ジルダに見せ、公爵を諦めさせようとする。

リゴレットはスパラフチーレに公爵の殺害を依頼するが、公爵に心を奪われたマッドレーナは反対する。ジルダはその一部始終を耳にする。

リゴレットはスパラフチーレから死体の入った麻袋を受け取る。そのとき、死んでいるはずの公爵の歌声が。リゴレットの前に横たわる麻袋の中から現れたのは・・・

第 28 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル : 歌劇「夢遊病の女」(ベルリーニ)

12 月 13 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

フランスが誇る歌姫デセイお得意の演目。パリ・オペラ座バスチーユ劇場の華やかな舞台とデセイの美しい歌声を楽しみましょう。

1 月はオペラ史上歴史的な名作、グルックの「オルフェオとエウリディーチェ」を予定。

あらすじ

【時と場所など】

16世紀、イタリア北部のルネッサンス都市マントヴァ

【登場人物】

- リゴレット:** マントヴァ公爵に仕える道化師。人を笑いの種にして家臣たちから恨まれている。
- ジルダ:** リゴレット溺愛の一人娘、16歳。外出は教会だけ許され、乳母と暮らしている。
- マントヴァ公爵:** 好色の若い領主
- スパラフチーレ:** 殺し屋。居酒屋兼宿屋を営む。
- マッダレーナ:** スパラフチーレの妹
- モンテローネ伯爵:** チェプラーノ伯爵夫人の実父。リゴレットに笑いものにされて呪う。

【第1幕】 マントヴァ公爵の宮殿の大広間、袋小路の奥にあるリゴレットの家

マントヴァ公爵の宮殿の大広間で盛大な宴。公爵は相変わらず女を口説いてアリア「あれかこれか」を歌う。そこへ娘を陵辱され、怒りをぶちまけて捕らえられたモンテローネ伯爵。リゴレットが伯爵を笑いものにし、伯爵はリゴレットに「父親の苦悩を笑うお前は、呪われよ」と言い捨てる。実はリゴレットには大事に隠し育てていた一人娘がいて、家臣たちから恨みを買っていたリゴレットは恐怖に震える。

リゴレットの娘ジルダは毎日曜日教会に通い、貧しい学生に変装した公爵に心を惹かれていた。その公爵が突然自宅に現れ偽りの愛を告白。伯爵が去ったあと後、ジルダはアリア「慕わしい人の名は」を歌う。それを外から見ていた家臣たちは、「あれがリゴレットの情婦だ。その女をさらってリゴレットを馬鹿にしてやろう」とジルダをさらう。自分の娘がさらわれたことを悟ったリゴレットは愕然とし「モンテローネの呪いだ」と叫ぶ。

【第2幕】 マントヴァ公爵の宮殿の一室

家臣たちがジルダを館に連れてきたのを知って喜び、ジルダを連れて部屋に入る。そこへリゴレットが現れ、家臣たちはさらってきた女がリゴレットの娘であることを知る。娘の居場所を教えてもらえないリゴレットはアリア「悪魔め鬼め」を歌う。ジルダを弄び終わった公爵が部屋から飛び出し、凌辱された娘に再会したリゴレットは公爵への復讐を誓う。娘は公爵を許すよう哀願する。

【第3幕】 殺し屋スパラフチーレの居酒屋兼宿屋

公爵が殺し屋スパラフチーレの宿で彼の妹マッダレーナを口説いている。スパラフチーレに公爵殺害を依頼したリゴレットはこの様子をジルダに覗かせ、公爵への愛を諦めさようとする。公爵は「女の心は羽根のように移ろいやすい」と「女心の歌」を歌う。公爵に口説かれたマッダレーナはすっかり公爵のとりこになり、兄に殺害を止めるように訴える。金をもらったので誰か身代わりが必要だというスパラフチーレの言葉を、壁穴から秘かに聞いたジルダは公爵の身代わりになることを決意。

スパラフチーレは身代わりを入れた袋を依頼主リゴレットに渡す。リゴレットはついに復讐が叶った、と喜び、その死体を川に捨てようとしたその時、公爵の陽気な歌声が聞こえてくる。耳を疑い呆然となったリゴレットは、袋の中を確認すると虫の息の愛娘の姿。「あの呪いだ」と叫んで泣き崩れる。

有名なアリア、重唱等

- 第1幕第1場 マントヴァ公爵のバッラータ*1「あれかこれか」
- 第1幕第2場 マントヴァ公爵とジルダの2重唱「それは心の太陽」
- 第1幕第2場 ジルダのアリア「慕わしい人の名は」
- 第2幕 マントヴァ公爵のシェーナ*2とアリア「あの娘の頬の涙が」
- 第2幕 リゴレットのアリア「悪魔め鬼め」
- 第3幕 マントヴァ公爵のカンツォーネ「女は気まぐれ(女心の歌)」
- 第3幕 マントヴァ公爵、マッダレーナ、リゴレット、ジルダの4重唱「美しい恋の乙女よ」*3

*1. バッラータ：中世イタリアで流行った詩形、楽式。「AbbaA」という音楽的構造を持つ。

*2. シェーナ（劇唱）：オペラの劇的な独唱。通常アリアの前に歌われる。

*3. オペラ史上最高の四重唱と言われている。リストはこの曲をもとに「リゴレット・パラフレーズ」を作曲した。

歌劇「リゴレット」の舞台



歌劇「リゴレット」の舞台。マントヴァのインフェリオーレ湖から見たドゥカーレ宮殿(左が宮殿、右がサン・ジョルジョ城、奥はサンタ・バルバラ教会の塔)

歌劇「リゴレット」誕生の経緯

ヴェネツィアのフェニーチェ劇場からオペラの新作を依頼されていたヴェルディは、かねてから温めていた題材の中からヴィクトル・ユーゴーの戯曲「王は愉しむ」を選んだ。この戯曲は1832年にパリで初演されたが、16世紀フランス国王フランソワ1世を主人公にした背徳的な内容と自由主義思想のため、たった一日で上演禁止にされたものである。

当時、北イタリアを支配していたオーストリアの検閲を避けるため、台本作者のピアヴェが当局と交渉してオペラの台本を完成させた。ヴェルディは並行して作曲を進めたが、オペラの上演は禁止に。このため、舞台をフランスからマントヴァに、登場人物を変更し、題名も元の「呪い」から「リゴレット」に変更したが、作品のテーマと内容の変更は拒否。ヴェルディが何故オペラの舞台となった街をマントヴァに変更したか、当時のマントヴァに実在した悪名高い道化師マテロが理由らしい。なお、マントヴァには観光名所として宮殿前に「リゴレットの家」が、湖の対岸に「スパラフチーレの館」がある。

本歌劇映像の撮影場所

第1幕宮殿の大広間はパルマのファルネーゼ劇場。宴会の後、呪われたリゴレットが広場を走っていく場面は



パルマのファルネーゼ劇場



クレモナのコムーネ広場



マントヴァのオリンピコ劇場

クレモナのドゥオモ広場。続いてスパラフチーレから殺人を持ちかけられる場面はマントヴァのサン・ジョルジョ城外。第2幕リゴレットの家は不明。宮殿はマントヴァのテ宮殿とオリンピコ劇場。第3幕スパラフチーレの館は不明、最後の湖上場面はインフェリオーレ湖（ミンチョ川の一部）。

*ミンチョ川は北部のガルダ湖から流れ出て、マントヴァを三方囲む3つの湖を通り、イタリアで最も長いポー川に流れ込む支流。



イタリア北部の鉄道網。クレモナはマントヴァからローカル線で約1時間、パルマはモデナで乗り換え。